

貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	20,800,887	流動負債	7,850,625
現金・預金	7,489,943	トレーディング商品	98
預託金	5,650,107	デリバティブ取引	98
トレーディング商品	770,291	約定見返勘定	331,378
商品有価証券等	770,233	信用取引負債	745,957
デリバティブ取引	57	信用取引借入金	660,065
信用取引資産	6,576,247	信用取引貸証券受入金	85,891
信用取引貸付金	6,552,809	預り金	5,355,420
信用取引借証券担保金	23,438	受入保証金	664,585
立替金	361	短期借入金	400,000
募集等払込金	60,958	リース債務	3,492
短期差入保証金	10,000	前受収益	64
前払金	6,615	未払費用	62
前払費用	23,495	未払法人税等	95,662
未収入金	16,737	未払消費税等	86,251
未収収益	151,197	未払消費税等	64,830
繰延税金資産	44,931	賞与引当金	102,820
固定資産	889,748	固定負債	82,109
有形固定資産	201,745	リース債務	3,778
建物	124,195	繰延税金負債	31,762
器具・備品	12,513	退職給付引当金	6,134
土地	58,400	役員退職慰労引当金	40,434
リース資産	6,636	特別法上の準備金	14,041
無形固定資産	63,477	金融商品取引責任準備金	14,041
ソフトウェア	36,845	負債合計	7,946,776
電話加入権	26,631	純資産の部	
投資その他の資産	624,526	科 目	金 額
投資有価証券	397,730	株主資本	13,743,731
出資金	2,020	資本金	3,794,341
長期貸付金	2,630	資本剰余金	1,672,625
長期差入保証金	85,455	資本準備金	1,672,625
破産更生債権等	149,487	利益剰余金	10,239,208
長期前払費用	2,096	利益準備金	948,585
前払年金費用	109,081	その他利益剰余金	9,290,623
その他	32,741	繰越利益剰余金	9,290,623
貸倒引当金	△156,718	自己株式	△1,962,444
資産合計	21,690,636	評価・換算差額等	128
		その他有価証券評価差額金	128
		純資産合計	13,743,859
		負債・純資産合計	21,690,636

損 益 計 算 書

(自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		3,024,276
受 入 手 数 料	2,386,102	
ト レ ー デ ィ ン グ 損 益	507,517	
金 融 収 益	130,656	
金 融 費 用		22,555
純 営 業 収 益		3,001,721
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費		2,061,401
営 業 利 益		940,320
営 業 外 収 益		33,352
営 業 外 費 用		3,083
経 常 利 益		970,589
特 別 利 益		578
金 融 商 品 取 引 責 任 準 備 金 戻 入	578	
特 別 損 失		18
固 定 資 産 除 却 損	18	
税 引 前 当 期 純 利 益		971,148
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		330,411
法 人 税 等 調 整 額		△7,757
当 期 純 利 益		648,494

株主資本等変動計算書

(自 平成29年4月1日)
(至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利 益 剰 余 金		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計
当 期 首 残 高	3,794,341	1,672,625	948,585	8,751,134	9,699,720
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当				△109,005	△109,005
当 期 純 利 益				648,494	648,494
自 己 株 式 の 取 得					
株主資本以外の項目 の当期変動額 (純額)					
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	539,488	539,488
当 期 末 残 高	3,794,341	1,672,625	948,585	9,290,623	10,239,208

(単位：千円)

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産 合計
	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当 期 首 残 高	△1,962,437	13,204,249	118	118	13,204,368
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当		△109,005			△109,005
当 期 純 利 益		648,494			648,494
自 己 株 式 の 取 得	△6	△6			△6
株主資本以外の項目 の当期変動額 (純額)			9	9	9
当 期 変 動 額 合 計	△6	539,481	9	9	539,491
当 期 末 残 高	△1,962,444	13,743,731	128	128	13,743,859

〔個別注記表〕

当社の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書は「会社計算規則」（平成18年2月7日法務省令第13号）の規定のほか「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）、及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」（昭和49年11月14日付日本証券業協会自主規制規則）に準拠して作成しております。

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

（重要な会計方針）

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) トレーディング商品に属する有価証券（売買目的有価証券）等

当社は、証券市場において公正な市場を維持し、かつ有価証券の流通を円滑ならしめることを目的として自己の計算により行う有価証券の売買取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引等をトレーディングと定めております。

トレーディング商品に属する有価証券等については時価法を採用しております。

(2) トレーディング商品に属さない有価証券等

その他有価証券

時価のあるもの…………… 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの…………… 移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

（リース資産を除く）…………… 定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（平成28年3月31日以前に取得した建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3年～42年

器具・備品 3年～20年

(2) 無形固定資産

（リース資産を除く）…………… 定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産……………

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金及び特別法上の準備金の計上基準

(1) 貸倒引当金…………… 債権の貸倒損失に備える為、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

(イ) 従業員賞与…………… 従業員に対する賞与の支払に備える為、支給見込額のうち、当事業年度が負担すべき額を計上しております。

(ロ) 役員賞与…………… 役員に対する賞与の支払に備える為、支給見込額のうち、当事業年度が負担すべき額を計上しております。

(3) 退職給付引当金…………… 従業員及び外務員に対する退職給付に備える為、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により、発生時から費用処理しております。なお、事業年度末において、年金資産見込額が退職給付債務見込額を超過している場合は、超過額を前払年金費用として計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金…………… 役員に対する退職慰労金の支払に備える為、内規に基づき計算した期末要支給見込額を計上しております。

(5) 金融商品取引責任準備金… 有価証券の売買その他の取引又はデリバティブ取引等に関して生じた事故による損失に備える為、金融商品取引法第46条の5の規定に基づき、金融商品取引業等に関する内閣府令第175条に定めるところにより算出した額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理…………… 税抜方式を採用しております。

(貸借対照表の注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額	179,593千円
2. 担保に供している資産及び担保に係る債務	
担保に供している資産…………… 預 金	200,000千円
担保に係る債務…………… 短期借入金	400,000千円
なお、上記の担保資産以外に、自己融資見返株券のうち時価総額442,317千円を担保に供しております。	
3. 担保等として差入れをした有価証券の時価額	
(1) 信用取引貸証券	94,801千円
(2) 信用取引借入金の本担保証券	665,243千円
(3) 差入保証金代用有価証券	360,224千円
4. 担保等として差入れを受けた有価証券の時価額	
(1) 信用取引貸付金の本担保証券	6,018,705千円
(2) 信用取引借証券	22,925千円
(3) 受入保証金代用有価証券	8,821,769千円
(再担保に供する旨の同意を得たものに限る)	
(4) その他担保として受け入れた有価証券	9,418千円
5. 関係会社に対する金銭債権	
短期金銭債権	10,584千円

(損益計算書の注記)

関係会社との取引高	
営業取引による取引高	
販売費・一般管理費	2,428千円
営業取引以外の取引による取引高	19,700千円

(株主資本等変動計算書の注記)

1. 発行済株式に関する事項 (単位：株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	14,622,533	—	—	14,622,533

2. 自己株式に関する事項 (単位：株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,721,942	6	—	3,721,948

(注) 当事業年度中の増加の概要は次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加 6株

3. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数 (千株)				当事業年度末残高 (千円)
			当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
当社	平成21年 第2回新株予約権 (ストックオプション)	普通株式	375	—	10	365	—
	平成22年 第3回新株予約権 (ストックオプション)	普通株式	10	—	—	10	—
合計			385	—	10	375	—

(注1) 平成21年第2回新株予約権の減少は、付与対象者の退職によるものであります。

(注2) 当社は未公開企業のため、付与時における単位当たりの本源的価値は0円であり、当事業年度末残高はありません。

4. 剰余金の配当に関する事項

当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日
平成29年6月20日 定時株主総会	普通株式	109,005千円	10円	平成29年3月31日	平成29年6月21日

当事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

決議予定	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	109,005千円	10円	平成30年3月31日	平成30年6月29日

(注) 配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

(税効果会計の注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払事業税	8,626千円
賞与引当金	31,730千円
未払法定福利費	3,966千円
役員退職慰労引当金	12,380千円
投資有価証券評価損	8,897千円
貸倒引当金	47,987千円
金融商品取引責任準備金	4,299千円
その他	18,141千円
計	136,029千円
評価性引当額	△89,403千円
繰延税金資産合計	46,626千円

繰延税金負債

前払年金費用	△33,400千円
その他有価証券評価差額金	△56千円
計	△33,457千円

繰延税金資産の純額 13,168千円

(金融商品の注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、有価証券の売買等、売買等の委託の媒介、有価証券の引受け・売出し、有価証券の募集・売出しの取扱い業務を行う第一種金融商品取引業者であります。

これらの業務を行うための資金は自己資金のほか金融機関からの借入金によっており、また、資金運用としては主に短期的な預金運用や信用取引に伴う貸付金、端株等のトレーディング業務があります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融商品のうち、主に事業資金に充てられる現金・預金や顧客資産の分別管理のため、法令に基づいて金融機関に信託した顧客分別金信託は預入先の信用リスクがあります。

商品有価証券等の内容は主に株式で、自己の利益を確保するためのトレーディング目的で保有し、また、投資有価証券は主に政策投資目的で保有する株式で、それぞれ市場リスクや取引先リスクがあります。顧客の信用取引に伴い発生する貸付金である信用取引貸付金には、顧客の信用リスクがあります。

短期借入金は資金調達的手段として利用しておりますが、流動性リスクがあります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社のリスク管理規程では、保有有価証券の株価等の変動に伴う市場リスク、取引相手の契約不履行に伴う取引先リスク（信用リスク）、当社の業績に伴い資金の調達や調達金利等に変動が生じる流動性リスク並びに基礎的リスクやシステムリスクを管理対象としています。各リスクのリスク額の算定は経営企画部経理課が行い、日々においては内部管理統括責任者に、週次では社長に、かつ、月次では取締役会に報告されています。さらに、コンプライアンス部がリスク管理の状況について四半期毎に内部監査を実施しています。

① 信用リスクの管理

預金、顧客分別金信託の管理は経営企画部経理課において大手金融機関を中心として信用力の高い金融機関に預け入れを行い、かつ、極力預金保護の対象となる決済性預金に預け入れることとしております。なお、顧客の外国有価証券取引決済等のため限定的に外貨預金を保有することがあります。

顧客取引等の信用リスクの管理のためコンプライアンス部が事務局となりリスク管理ミーティングを毎月開催しております。なお、信用取引貸付金については顧客管理の規程に基づき信用取引の開始時点やその後の株価変動に伴う担保受入等についてはコンプライアンス部や営業店が日々管理しております。

② 市場リスクの管理

端株事業部端株事業課で行うトレーディング業務については上限枠、及びその他のトレーディング業務についてはトレーディング上限枠を取締役会で決定しております。

投資有価証券については投資上限額を取締役会で決定するとともに、その取得にあたっては取締役会での承認を得ております。

③ 流動性リスクの管理

流動性リスクの管理は、資金管理の規程に基づいて日々、週次、月次での資金管理を経営企画部経理課が行っており、また、一部の金融機関とは当座借越契約を締結しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（（注2）をご参照ください。）

	貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 現金・預金	7,489,943	7,489,943	—
(2) 預託金	5,650,107	5,650,107	—
(3) 商品有価証券等	770,233	770,233	—
(4) 信用取引貸付金	6,552,809	6,552,809	—
(5) 信用取引借証券担保金	23,438	23,438	—
(6) 投資有価証券	324	324	—
資産計	20,486,856	20,486,856	—
(1) 信用取引借入金	660,065	660,065	—
(2) 信用取引貸証券受入金	85,891	85,891	—
(3) 預り金	5,355,420	5,355,420	—
(4) 受入保証金	664,585	664,585	—
(5) 短期借入金	400,000	400,000	—
負債計	7,165,963	7,165,963	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金・預金 (2) 預託金 (4) 信用取引貸付金 (5) 信用取引借証券担保金
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 商品有価証券等 (6) 投資有価証券

株式は取引所の価格によっており、投資信託は公表されている基準価額によっております。また、売出債に係る引受ポジションで流通市場において取引されていない銘柄は約定価格によっております。

負債

(1) 信用取引借入金 (2) 信用取引貸証券受入金 (3) 預り金 (4) 受入保証金
(5) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式 (※)	397,406

(※) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(6) 投資有価証券」には含めておりません。

(関連当事者との取引の注記)

1. 親会社及び法人主要株主等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	株式会社大和証券グループ本社	被所有 直接 78.22% 間接 5.65%	国際的な金融規制全般に対応する業務の業務委託契約の締結	営業外収益	19,700	未収入金	10,584

2. 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	株式会社大和総研ビジネス・イノベーション	-	当社基幹システム開発委託及び運用管理	事務委託費	199,133	未払費用	26,881

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 株式会社大和総研ビジネス・イノベーションは、当社の親会社である株式会社大和証券グループ本社の子会社であります。
2. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
3. 取引条件は、一般的な取引条件を参考に協議のうえ決定しております。

(1株当たり情報の注記)

1株当たり純資産額	1,260円84銭
1株当たり当期純利益	59円49銭

- (注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。